

自己評価結果 2階ユニット「海」

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	173501255		
法人名	有限会社ワームサポート		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号		
自己評価作成日	令和6年3月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501255&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その名が示すように「ひだまりの家」は一日中陽の光を受けるロケーションにあります。室蘭港、測量山、白鳥大橋、工場群を一望し、風光明媚な場所に位置しています。2005年(平成17年)開設時より「アットホームな生活環境」をコンセプトに、基本理念にある「穏やかで安らぎのあるそして笑いのある暮らしの場」、を目標に入居者様の介護ケアに努めております。代者者の加藤家は地元御崎町に在住して百二十数年という町内最古参で、よって町内会始め地域近隣住民との絆は深く、避難訓練、敬老の集いなどの行事・イベントには近隣住民、町内会役員らが参加し応援協力を得ています。また、町会のお祭りや文化展にはホームの入居者が参加し、「地域密着型」を実践しております。その他、近隣にある総合病院の看護学校の学生、介護福祉専門学校の生徒、介護福祉初任者研修の受講生等の「介護現場実習」の受け入れ機関として、これら生徒、受講生の学業支援に努めております。開設16年を迎えて職員スタッフの定着、安定した人材確保、人材育成を目標に、スローガンである「良質な介護サービスの提供をめざして」に邁進しております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

ユニット「海」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「地域とともに、穏やで安らぎのある暮らしの場の提供を」の項目を重視し、地域との繋がりをモットーにしている。理念は見やすい場所に掲示、パンフ等に記載、常に共有できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方との朝・昼・晩のあいさつの徹底、避難訓練などホームの行事には町会関係者、地域の方にご協力頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会や市主催のセミナー、講演にはケアマネが講師に招かれている。これら活動には介護保険事業所として協力体制を敷いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、外部会場にて運営推進会議を行っている。各方面からの助言や情報提供を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内13グループホームの運営事業所が加盟する「室蘭市GH連絡会」を通じて、入退去状況、議事録の送付、各種研修会の報告、行政との連携等に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束は行わないものとしているが、仮に身体拘束を行う場合には基準を明確にし、職員の独断で拘束を行わないように定めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える虐待だけでなく、言語による虐待や無関心・意図的な無視など目に見えない事も虐待であることを職員には徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職・事務員を中心に、成年後見制度など講習セミナーに参加し見識を深めている。随時制度について研鑽を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には不安や疑問が残らないように納得くまで説明を行っている。利用規約が変更になった場合には書面で伝達し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には毎回家族の代表が参加している。その際に意見交換を行っている。面会でご家族が来られた際は些細なことでも相談していただけるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回「ユニットミーティング」を開催、必要に応じて「個別面談」など行い、職員の意見を聞き入れるよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	通常の仕事への取り組みに加えて、資格の有無・役職に応じて賃金に反映できる環境を構築している。またやむを得ず時短しなければならない職員に対しては柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップには職員の技能レベルに応じてOJTにて行っている。社内研修には外部のオンデマンド講習利用し、個別でカリキュラム設定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	顧問は以前「室蘭グループホーム連絡会」の会長を担い、業界の資質の向上に努めている。「西胆振GH広域連絡会」などの研修会を通して、意見交換や交流の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホーム内を見学していただき、雰囲気や環境、職員の介助などを実感していただいている。本人の希望を可能な限り実現できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得が行くまでホームを見学していただいている。ホームの雰囲気、職員スタッフの対応、他の入居者様の表情を見ていただいた上で、ご家族の要望も加えて今後入居者の生活を充実したものにするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族の思いや希望をしっかりと聞き、ホームとして「できること・できないこと」を十分に説明している。また、早急な入居を迫らないで納得した上で入居できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力がある方には洗濯や調理等で軽作業を職員とともに行っている。また様々な困難な場面には言葉だけではなく表情など内情も鑑みて入居者の自尊心を傷つけないようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の面会、電話があった時には逐一報告している。直接会うことは難しい時にはビデオ通話ソフトを使用し、顔が見られる環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のこれまでの生活歴や習慣、趣味等の情報を職員間で共有するようしている。面会に来られたご家族からも入居前の様子を聞き取りし、ホームでの生活に早く馴染めるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者の性格や他入居者との相性を観察し、入居者同士の中で孤立しないよう心がけている。場合によっては職員が見える形で介入おこなうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した入居者のご家族が来訪することがある。狭い地域なのでご家族と街中で遭遇することもある。その時は互いに情報を交換し、朝礼等で報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動から入居者の思いや要望を察知できるよう努めている。また表現が難しい人も態度や表情から本人の希望をくみとり、入居者中心の介助を行うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ごとに生活環境は異っているため、直接本人に訪ねたり、家族に問い合わせたりして、画一的な対応にならないように情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の全体朝礼、ユニットミーティング、連絡ノートなどで、職員に入居者全員の体調や雰囲気など伝達できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人や家族の要望、職員が入居者に接したときに感じたことを次に活かせるように、情報交換を行い計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに介護ソフトに記録し、一日の生活状況や排泄、入浴、血圧や体温などを記録している。大きな生活上の変化があれば都度計画変更し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携歯科医院から歯科衛生士によるホーム内での口腔ケア指導を行ったり。出張理容サービスを頼んだりなど、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春の火災避難訓練には地域の近隣住民、町会役員に協力していただいている。施設の行事と町会の行事に置いては、互いの行事に参加し地域密着を実現しながら住民と交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ病院等がある場合には継続して通院できるように医療機関には職員が同行して受診している。体調不良時には施設協力医に往診をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が全入居者の健康チェックを行っている。体調の変化や受診時の状況なども看護師に報告し、相談しながら入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合ホーム内での様子やADLについて情報提供を行い、ご家族には現状の報告を速やかに行っている。また退院時は施設に復帰できるか病院の相談員等と相談し、早期退院している場合には施設内の環境整備を行うように心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成し、同意書をご家族との間で取り交わしている。また、その場合の介助内容は「ターミナルケアに関するマニュアル」に基づき、ご家族と確認しながら介助を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室蘭市GH連絡会主催の救命講習を定期的に受講し、職員スタッフの大半が終了している。緊急マニュアルをユニットごとに置き、随時研鑽に努めるように学習環境を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災探知機・スプリンクラー装置などの設備については保守管理者が定期的に点検を行っている。毎年春に近隣住民の参加の避難訓練を行い、災害対策に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症により様々な能力が失われているとはいえ、人生の先達であるため、入居者の人格を尊重し自尊心を傷つけないように言葉遣いや振る舞うように指導を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	仮に言語で本人の希望を尋ねることが困難であっても、表情や仕草から本人の意思をくみ取っていく。職員の一方的な介助にならないように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間と消灯時間以外は定まっていないので、基本的には入居者の過去の生活状況によせて介助行う。ただし昼夜逆転等普段の生活に支障をきたす場合には生活リズムの再構築を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院・受診などの外出時の際は、本人の希望を聞き、身だしなみを整えている。自力で行えない入居者は職員が介助し、診察に支障ない本人の嗜好にあった服装等に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部業者に高齢者対応のメニューで配食してもらっている。コミュニケーションを取りながら食事をしている。能力がある入居者には下膳や食器拭きを手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1000cc以上の水分摂取を目標に、医師の助言や入居者の体調に合わせて調整している。食事・水分摂取量に記録している。入居者の咀嚼状況を勘案した形態に加工も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。強制ではないが入居者に対して定期的に歯科衛生士が来訪し衛生指導お願いしている。終了後には情報共有し口腔ケアの方法や治療が必要な場合には判断材料としている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の尊厳を守る重要な要素として各職員に徹底している。自尊心を傷つけないように細心の注意を払って介助を行っている。仮にオムツ使用となってもトイレでの排泄ができるように時間帯等工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々のミーティングの際、排泄状態を確認し、水分補給やなどを行って便秘を起こさないようにしている。必要な場合には下剤を使用し長期間にならないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を鑑みて定期的に入浴ができるようにしている。入居者によっては他の人と入浴のサイクルが違うこともあるが可能な限り対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に定めておらず本人の意志に任せているが夕食後、歯磨き等が終わると居室に戻り就寝する人が大半である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに曜日と三食・就寝時に分けられた薬箱を準備し、服薬忘れがないようにしている。また服薬させてない職員が最終確認するようしており、忘薬・誤薬がないようチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が元々やっていた趣味や、世代的に馴染んだであろう事に接することができるようにしている。歌謡曲を流したり、囲碁将棋をしたりなど嗜好にあったものを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの裏の敷地に短いが遊歩道が設置されているので、天候のいい日には散歩ができるようになっている。また職員に余裕がある場合は入居者の買い物に同行することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設内で金銭をやり取りすることはないが、入居前から財布を持ち歩く習慣がある人には無理に取り上げたりせず、多少のお金を入れて持たせている。紛失対策のため定期的に中身を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から入居者と話したいという場合には基本的に取次行っている。また入居者が外に電話をかけられるようにはしているが事例としてはほとんどない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、階段の壁面、玄関等施設内部には行事の写真やパネルを設置し、季節を感じられるように飾り付け、装飾など工夫を凝らしている。トイレなどはひと目で分かるようにの印をつけ必要に応じて誘導のための張り紙等も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座席配置は他入居者との関係性を考慮し決めている。食事以外の時間はソファなども活用して各入居者がリラックスできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自宅で使っていたものを持ってきてもらっている。手紙や写真などがある時には自室に掲示している。画一的なレイアウトにこだわらず、安心・安全を考慮し家具等は配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレには手すりを設置し安全に移動できるようにしている、また車椅子生活になったとしても専用トイレやエレベーターなど歩行が困難でも対応できる設備がある。		

自己評価結果 3階ユニット「空」

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	173501255		
法人名	有限会社ワームサポート		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号		
自己評価作成日	令和6年3月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501255&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その名が示すように「ひだまりの家」は一日中陽の光を受けるロケーションにあります。室蘭港、測量山、白鳥大橋、工場群を一望し、風光明媚な場所に位置しています。2005年(平成17年)開設時より「アットホームな生活環境」をコンセプトに、基本理念にある「穏やかで安らぎのあるそして笑いのある暮らしの場」、を目標に入居者様の介護ケアに努めております。代者者の加藤家は地元御崎町に在住して百二十数年という町内最古参で、よって町内会始め地域近隣住民との絆は深く、避難訓練、敬老の集いなどの行事・イベントには近隣住民、町内会役員らが参加し応援協力を得ています。また、町会のお祭りや文化展にはホームの入居者が参加し、「地域密着型」を実践しております。その他、近隣にある総合病院の看護学校の学生、介護福祉専門学校の生徒、介護福祉初任者研修の受講生等の「介護現場実習」の受け入れ機関として、これら生徒、受講生の学業支援に努めております。開設16年を迎えて職員スタッフの定着、安定した人材確保、人材育成を目標に、スローガンである「良質な介護サービスの提供をめざして」に邁進しております。

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

ユニット「3階 空」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「地域とともに、穏やで安らぎのある暮らしの場の提供を」の項目を重視し、地域との繋がりをモットーにしている。理念は見やすい場所に掲示、パンフ等に記載、常に共有できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方との朝・昼・晩のあいさつの徹底、避難訓練などホームの行事には町会関係者、地域の方にご協力頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会や市主催のセミナー、講演にはケアマネが講師に招かれている。これら活動には介護保険事業所として協力体制を敷いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、外部会場にて運営推進会議を行っている。各方面からの助言や情報提供を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内13グループホームの運営事業所が加盟する「室蘭市GH連絡会」を通じて、入退去状況、議事録の送付、各種研修会の報告、行政との連携等に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束は行わないものとしているが、仮に身体拘束を行う場合には基準を明確にし、職員の独断で拘束を行わないように定めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える虐待だけでなく、言語による虐待や無関心・意図的な無視など目に見えない事も虐待であることを職員には徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職・事務員を中心に、成年後見制度など講習セミナーに参加し見識を深めている。随時制度について研鑽を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には不安や疑問が残らないように納得くまで説明を行っている。利用規約が変更になった場合には書面で伝達し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には毎回家族の代表が参加している。その際に意見交換を行っている。面会でご家族が来られた際は些細なことでも相談していただけるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回「ユニットミーティング」を開催、必要に応じて「個別面談」など行い、職員の意見を聞き入れるよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	通常の仕事への取り組みに加えて、資格の有無・役職に応じて賃金に反映できる環境を構築している。またやむを得ず時短しなければならない職員に対しては柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップには職員の技能レベルに応じてOJTにて行っている。社内研修には外部のオンデマンド講習利用し、個別でカリキュラム設定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	顧問は以前「室蘭グループホーム連絡会」の会長を担い、業界の資質の向上に努めている。「西胆振GH広域連絡会」などの研修会を通して、意見交換や交流の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホーム内を見学していただき、雰囲気や環境、職員の介助などを実感していただいている。本人の希望を可能な限り実現できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得が行くまでホームを見学していただいている。ホームの雰囲気、職員スタッフの対応、他の入居者様の表情を見ていただいた上で、ご家族の要望も加えて今後入居者の生活を充実したものにするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族の思いや希望をしっかりと聞き、ホームとして「できること・できないこと」を十分に説明している。また、早急な入居を迫らないで納得した上で入居できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力がある方には洗濯や調理等で軽作業を職員とともに行っている。また様々な困難な場面には言葉だけではなく表情など内情も鑑みて入居者の自尊心を傷つけないようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の面会、電話があった時には逐一報告している。直接会うことは難しい時にはビデオ通話ソフトを使用し、顔が見られる環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のこれまでの生活歴や習慣、趣味等の情報を職員間で共有するようしている。面会に来られたご家族からも入居前の様子を聞き取りし、ホームでの生活に早く馴染めるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者の性格や他入居者との相性を観察し、入居者同士の中で孤立しないよう心がけている。場合によっては職員が見える形で介入おこなうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した入居者のご家族が来訪することがある。狭い地域なのでご家族と街中で遭遇することもある。その時は互いに情報を交換し、朝礼等で報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動から入居者の思いや要望を察知できるよう努めている。また表現が難しい人も態度や表情から本人の希望をくみとり、入居者中心の介助を行うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ごとに生活環境は異っているため、直接本人に訪ねたり、家族に問い合わせたりして、画一的な対応にならないように情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の全体朝礼、ユニットミーティング、連絡ノートなどで、職員に入居者全員の体調や雰囲気など伝達できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人や家族の要望、職員が入居者に接したときに感じたことを次に活かせるように、情報交換を行い計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに介護ソフトに記録し、一日の生活状況や排泄、入浴、血圧や体温などを記録している。大きな生活上の変化があれば都度計画変更し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携歯科医院から歯科衛生士によるホーム内での口腔ケア指導を行ったり。出張理容サービスを頼んだりなど、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春の火災避難訓練には地域の近隣住民、町会役員に協力していただいている。施設の行事と町会の行事に置いては、互いの行事に参加し地域密着を実現しながら住民と交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ病院等がある場合には継続して通院できるように医療機関には職員が同行して受診している。体調不良時には施設協力医に往診をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が全入居者の健康チェックを行っている。体調の変化や受診時の状況なども看護師に報告し、相談しながら入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合ホーム内での様子やADLについて情報提供を行い、ご家族には現状の報告を速やかに行っている。また退院時は施設に復帰できるか病院の相談員等と相談し、早期退院している場合には施設内の環境整備を行うように心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成し、同意書をご家族との間で取り交わしている。また、その場合の介助内容は「ターミナルケアに関するマニュアル」に基づき、ご家族と確認しながら介助を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室蘭市GH連絡会主催の救命講習を定期的に受講し、職員スタッフの大半が終了している。緊急マニュアルをユニットごとに置き、随時研鑽に努めるように学習環境を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災探知機・スプリンクラー装置などの設備については保守管理者が定期的に点検を行っている。毎年春に近隣住民の参加の避難訓練を行い、災害対策に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症により様々な能力が失われているとはいえ、人生の先達であるため、入居者の人格を尊重し自尊心を傷つけないように言葉遣いや振る舞うように指導を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	仮に言語で本人の希望を尋ねることが困難であっても、表情や仕草から本人の意思をくみ取っていく。職員の一方向的な介助にならないように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間と消灯時間以外は定まっていないので、基本的には入居者の過去の生活状況によせて介助行う。ただし昼夜逆転等普段の生活に支障をきたす場合には生活リズムの再構築を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院・受診などの外出時の際は、本人の希望を聞き、身だしなみを整えている。自力で行えない入居者は職員が介助し、診察に支障ない本人の嗜好にあった服装等になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部業者に高齢者対応のメニューで配食してもらっている。コミュニケーションを取りながら食事をしている。能力がある入居者には下膳や食器拭きを手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1000cc以上の水分摂取を目標に、医師の助言や入居者の体調に合わせて調整している。食事・水分摂取量に記録している。入居者の咀嚼状況を勘案した形態に加工も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。強制ではないが入居者に対して定期的に歯科衛生士が来訪し衛生指導お願いしている。終了後には情報共有し口腔ケアの方法や治療が必要な場合には判断材料としている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の尊厳を守る重要な要素として各職員に徹底している。自尊心を傷つけないように細心の注意を払って介助を行っている。仮にオムツ使用となってもトイレでの排泄ができるように時間帯等工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々のミーティングの際、排泄状態を確認し、水分補給やなどを行って便秘を起こさないようにしている。必要な場合には下剤を使用し長期間にならないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を鑑みて定期的に入浴ができるようにしている。入居者によっては他の人と入浴のサイクルが違うこともあるが可能な限り対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に定めておらず本人の意志に任せているが夕食後、歯磨き等が終わると居室に戻り就寝する人が大半である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに曜日と三食・就寝時に分けられた薬箱を準備し、服薬忘れがないようにしている。また服薬させてない職員が最終確認するようしており、忘薬・誤薬がないようチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が元々やっていた趣味や、世代的に馴染んだであろう事に接することができるようにしている。歌謡曲を流したり、囲碁将棋をしたりなど嗜好にあったものを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの裏の敷地に短いが遊歩道が設置されているので、天候のいい日には散歩ができるようになっている。また職員に余裕がある場合は入居者の買い物に同行することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設内で金銭をやり取りすることはないが、入居前から財布を持ち歩く習慣がある人には無理に取り上げたりせず、多少のお金を入れて持たせている。紛失対策のため定期的に中身を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から入居者と話したいという場合には基本的に取次行っている。また入居者が外に電話をかけられるようにはしているが事例としてはほとんどない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、階段の壁面、玄関等施設内部には行事の写真やパネルを設置し、季節を感じられるように飾り付け、装飾など工夫を凝らしている。トイレなどはひと目で分かるようにの印をつけ必要に応じて誘導のための張り紙等も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座席配置は他入居者との関係性を考慮し決めている。食事以外の時間はソファなども活用して各入居者がリラックスできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自宅で使っていたものを持ってきてもらっている。手紙や写真などがある時には自室に掲示している。画一的なレイアウトにこだわらず、安心・安全を考慮し家具等は配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレには手すりを設置し安全に移動できるようにしている、また車椅子生活になったとしても専用トイレやエレベーターなど歩行が困難でも対応できる設備がある。		